

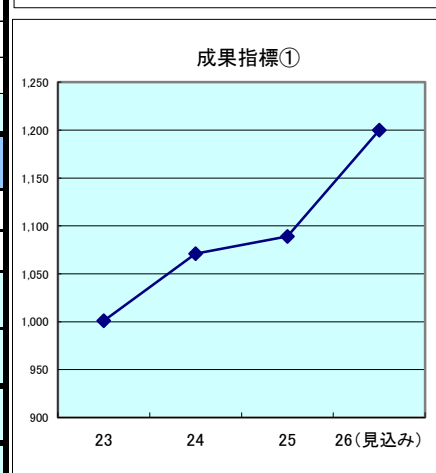
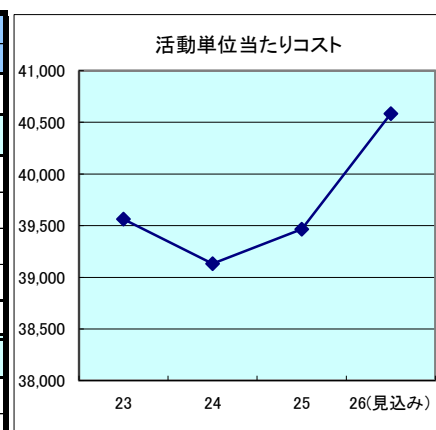
平成 26 年度 事務事業評価シート (平成 25 年度実施事業)

整理番号

保保05

事務事業名			人間ドック費用助成事業		予算科目	会計	2	国民健康保険特別会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち			款	8	保健事業費	
	施策(節)	1	保健・医療			項	2	保健事業費	
	施策の方向	(3)	健康診査の充実			目	2	健康推進事業費	
関連する計画等					作成部署	保健福祉部保険健康室保険年金課			
					(連絡先)	072 - 958 - 1111 内線 1761			
事業の概要(目的・内容)			国民健康保険被保険者の疾病の予防、早期発見および早期治療を推進し、健康の保持増進に努めることを目的に人間ドック費用の助成を行っている。 従来、人間ドック費用助成事業の対象年齢は満35歳から74歳以下であったが、平成25年度より満30歳から74歳以下に対象年齢を拡大し、被保険者の健康増進を図っている。						
根拠法令等			国民健康保険法 第82条 1項						
事業期間			☒ 10年以上 ☐ 5年以上10年未満 ☐ 5年未満 (平成 年度開始)						
事業開始時からの状況変化			脳ドック(平成14年度)・レディースコース(乳がん・子宮がん：平成17年度)のオプション追加 健診実施機関の追加、対象年齢の拡大(平成25年度)						
実施手法			☐ 直営 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先			☐ 市外郭団体委託 名称() ☒ 民間委託 ☐ その他		委託内容		人間ドックの実施		

区 分	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)	36,063	38,390	39,268	45,000
人件費【2】 (千円)	3,540	3,520	3,710	3,701
職員数				
正規職員	0.30 人	0.30 人	0.30 人	0.30 人
再任用職員				
嘱託職員	0.20 人	0.20 人	0.20 人	0.20 人
臨時職員	0.50 人	0.50 人	0.60 人	0.60 人
超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費【(1)+(2)】【A】 (千円)	39,603	41,910	42,978	48,701
財源内訳				
国庫支出金 (千円)				
府支出金 (千円)				
市債 (千円)				
その他(使用料・手数料等) (千円)	36,063	38,390	39,268	45,000
一般財源【B】 (千円)	3,540	3,520	3,710	3,701
活動指標【C】 単位	23年度	24年度	25年度	26年度 (見込み)
① 人間ドック受診者数	1,001	1,071	1,089	1,200
②				
活動単位当たりコスト 〔A〕÷〔C〕①	39,563 円	39,132 円	39,466 円	40,584 円
活動単位当たり一般財源額 〔B〕÷〔C〕①	3,536 円	3,287 円	3,407 円	3,084 円
市民1人当たりコスト 〔A〕÷人口	336 円	358 円	369 円	422 円
一般財源【B】の推移(前年度比)		▲ 0.6 %	5.4 %	▲ 0.2 %
※前年度比5%以上変動している要因(該当する場合のみ)	☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☒ 2. 左記1によらない対象件数などの増減 ☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 4. 国庫支出金など特定財源の増減 ☐ 5. その他()			
※該当項目すべてに✓				



成果指標 (事業の達成度)	指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	① 人間ドック受診者数	人	目標 1,000	1,100	1,200	1,200
	(式又は説明) 被保険者の疾病の早期発見および健康意識の向上、及び保険者としての将来的な給付費抑制	実績 1,001	1,071	1,089	達成率(%) 90.8%	
②		目標			達成率(%)	
(式又は説明)		実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
				○						

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	年々、受診者数が増加しており、市民の健康管理に寄与している。 毎年、定期的に受診することにより、体調等の変化を把握し、疾病の予防・早期発見・早期治療につながる。 年間、1,000人以上が利用する事業であり、市民への影響は大きい。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	医療費適正化の観点から、自覚症状がない状態での疾病の早期発見・早期治療は重要なことである。 症状発症後の治療に対する保険給付費と比較しても効率性は高い。 本事業の受益者負担割合は、3割となっており、治療行為における医療費の負担割合の最大となっている。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない	☒	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☐	☐	☒	人間ドックの検査内容に関しては、学会基準に準じている。
	有効性	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	健康管理の観点から有効性は高く、事業の普及啓発に努めたい。
	達成度	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	今後も広報や市のウェブサイトなど事業の啓発に努めたい。

担当 部局 評価	総合評価			
	☒ 継続	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 廃止・休止
	(概ね現行どおり継続して実施)	(実施方法の改善を検討する)	(事業規模の縮小を検討する)	(廃止・休止を検討する)
	今後に向けて(取組方針・具体的な改善改革案など)			
	平成25年度より、対象年齢を満30歳から74歳以下に拡大し、被保険者の健康意識の向上、疾病の予防、早期発見・早期治療に努めている。 被保険者が毎年、継続的に人間ドックを受診することにより、有効性がさらに高まるため、今後も事業継続の意義は大きい。			
行 革 本 部 評価	総合評価		評価理由・意見	
	☐ 継 続 ☐ 改善 ☐ 縮 小 ☐ 廃止・休止			